

SDGs達成に向けた進捗の可視化

— 東京都の市区町村を事例に —

川久保 俊¹ 今井 隼人¹
尾崎 心太郎² 木村 悠太郎² 野崎 千尋²

1) 慶應義塾大学大学院 理工学研究科
2) 法政大学大学院 デザイン工学研究科

2030年までに全世界で持続可能な開発目標（SDGs）の達成が求められている。そのために、SDGs達成に向けた進捗を測定し、これまでの取組を振り返るフォローアップ・レビュー（FUR）が推奨されている。FURを身近に感じていただくために、東京都の市区町村におけるSDGs達成への進捗を測定した。17の目標毎に代表的な指標を1つずつ選定し、2015年2020年の指標値をArcGISを用いて可視化した。東京ミッドタウンが位置する港区や皆様の地域に注目すると、何か気づきがあるかもしれない。



※ 最上層の自治体はレイアウトの都合上掲載していない。一部の指標について、特別区の指標値は特別区全体の平均値をそれぞれの区に与えている。一部の指標は2015年、2015年のデータが存在しないため、数値欠けたデータを採用している。資料提供は国土情報院 京中支店（<https://www.gis.go.jp/C488/EOU/EOU/geo/geo/geo/>）のコンテンツを加工加工

本ポスターのデータは「ローカルSDGsプラットフォーム」で閲覧可能である。ローカルSDGsプラットフォームでは、全256の指標を用いて測定した全国自治体のSDGs進捗状況を確認することができる。

ローカルSDGsプラットフォーム：<https://local-sdgs.jp/>
川久保研究室HP：<https://platform-clover.net/feature/kawakubo>